

# 日本安全教育学会第 15 回宮城大会 オプション企画 仙台ワークショップ 2014 『防災教育／復興教育の研究と実践』

日 時：平成 26 年 9 月 15 日（月・祝）9:30～16:00（9:15 受付開始）

会 場：仙台市情報・産業プラザ 6 階セミナールーム(2)A （仙台市青葉区中央 1 丁目 3 番 1 号 AER 6 階）※定員 60 名

主 催：日本安全教育学会

共 催：東北大学災害科学国際研究所

参 加 費：無料（予稿集代として 1,000 円を当日お支払願います。非会員でも参加できます。）

参加申込：第 15 回宮城大会の「大会参加申込用紙」に必要事項を記入の上、jase15@dcrc.tohoku.ac.jp へ 8 月 15 日（金）までに送付願います。「大会参加申込用紙」は、日本安全教育学会のホームページからダウンロード願います。

日本安全教育学会ホームページ <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/karima-lab/JASE/JASE.html>

問 合 せ：「仙台ワークショップ 2014」事務局 東北大学災害科学国際研究所 佐藤 健 TEL 022-795-7509 / FAX 022-795-7854

## プログラム

※ 都合により、演題の順番が変更になる場合があります。その場合は、学会ホームページ等でお知らせ致します。

9:30 理事長開会挨拶 渡邊正樹（東京学芸大学）

□ 講演発表（発表 15 分、質疑応答 5 分）

座長：戸田芳雄（東京女子体育大学）

<b>9:40～10:00</b> 演題 1	<b>東日本大震災以降の防災教育・防災管理に関する教員研修の現状と課題</b>
○藤岡達也（滋賀大学）	東日本大震災以降、各地において防災管理や防災教育に関する研修が実施されている。それぞれの地域や学校応の特色に応じた取組が見られる。発表では各地の研修の現状と課題に着目し、その中の一般性と特殊性について探りたい。
<b>10:00～10:20</b> 演題 2	<b>教員養成における学校防災教育 —山形大学の取組—</b>
○村山良之（山形大学）・八木浩司（山形大学）・川邊孝幸（山形大学）・齋藤英敏（山形市立滝山小学校）	山形大学教職大学院では、2009 年設立当初から「学校の安全と防災教育」を必修科目として教育を行ってきた。さらに、同地域教育文化学部では、「教員になるための学校防災の基礎（仮）」の 2015 年度新設が決まり、開講に向けて準備作業を行っている。これらの内容、課題等について明らかにする。
<b>10:20～10:40</b> 演題 3	<b>高専における防災リテラシー教育の効果に関する定量的把握 —授業前後の理解度を視座として—</b>
○太田敏一（明石高専）・松野 泉（明石高専）・石田 祐（明石高専）	平成 25 年度に始まった防災教育の核となる「防災リテラシー」教育においては、学生の理解度を授業前後に自己評価しながら進めている。その分析から明らかとなった諸要素について紹介し、今後の防災教育の展開に寄与する。
10:40～10:50 休憩	
座長：西岡伸紀（兵庫教育大学）	
<b>10:50～11:10</b> 演題 4	<b>地域性を考慮した防災保育の実践活動から</b>
○山田伸之（福岡教育大学）	普段あまり地震の揺れを感じる事のない地域における保育園・幼稚園での地震防災保育を継続的に実施してきた実践例を報告するとともに、保護者や保育士へのアンケート結果の傾向から、今後の防災教育の方向性などについて検討したい。
<b>11:10～11:30</b> 演題 5	<b>地域の歴史地震を題材にした防災教育の取り組み —1914 年秋田仙北地震を事例にして—</b>
○水田敏彦（秋田大学）	秋田県の仙北地方に大きな被害をもたらした 1914 年秋田仙北地震から、今年の 3 月 15 日に丁度 100 年となる。本報では、秋田仙北地震を事例として、郷土資料の文献調査を行い、教訓をもとにした防災教育教材の作成と啓発の実践を紹介する。
<b>11:30～11:50</b> 演題 6	<b>災害時アクションカードの防災教育での活用</b>
○中野 晋（徳島大学）・鳥庭康代（徳島大学）	演者らは学校や社会福祉施設での防災管理に災害時アクションカードを活用する方法を提案し、普及に努めている。主に災害時アクションカードは防災管理の担当者が防災管理の高度化を目的として作成するが、防災教育で用いる場合には児童・生徒自らに自宅や通学途上などで災害にあった場合のアクションカードを作成させ、防災意識の向上を図った。
11:50～12:50 昼食・休憩	

12:50～13:10

演題 7

川内川水防災河川学習プログラムの開発（その1）  
—行政・教育現場・大学が連携した防災学習の取り組み—

○宗 琢万（国土交通省九州地方整備局）・村上裕明（国土交通省九州地方整備局）・黒光貴峰（鹿児島大学）

平成 18 年 7 月の鹿児島県北部豪雨災害を教訓に、地域防災力向上を図るため、川内川流域のさつま町において行政・教育現場・大学が連携して「川内川水防災河川学習プログラム」を開発した。その概要と開発プロセスについて発表する。

13:10～13:30

演題 8

川内川水防災河川学習プログラムの開発（その2）  
—学習プログラムの有効性の検証と教育現場への普及の検討—

○黒光貴峰（鹿児島大学）・宗 琢万（国土交通省九州地方整備局）・村上裕明（国土交通省九州地方整備局）

その1では、防災の視点を取り入れた「川内川水防災河川学習プログラム」の概要と開発プロセスについての発表を行った。その2では、開発した学習プログラムを教育現場で実施し、有効性の検証と教育現場への普及の検討の報告を行なう。

13:30～13:50

演題 9

## 地域に学ぶ防災キャンプ推進事業の取組

○松井謙太（見附市教育委員会）

新潟県見附市で平成 24 年度より実施している「体験活動推進プロジェクト（防災キャンプ推進事業）」の概要と児童への事後アンケートについて報告するもの。内容は、地域の自然の二面性（災害と恩恵）を理解し、地域に愛着をもつためのプログラムや、学校、地域、関係機関、NPO、行政等がパートナーシップを構築する体制づくり等。

13:50～14:00 休憩

座長：調整中

14:00～14:20

演題 10

## 学び合う防災学習の理論と実践

○城下英行（関西大学）

防災教育＝知識・技術の伝達という個体能力主義に基づく防災教育が抱える問題を整理し、そうした問題を解決するための一方策を紹介する。また、当該方策に基づく、防災教育の実践事例についても紹介する。

14:20～14:40

演題 11

## 防災減災教育が児童に与える影響

○中井典絵（法政大学）

小学校 100 校以上での環境や防災出前授業実践により得た手法を用い、体験型教材と映像型教材の比較を通して、それぞれの影響の違いを明らかにした。中心に据えるテーマは、災害時に児童の「主体的に行動する態度」を養うには？である。どちらが、より「主体的に行動する態度」に影響するのか？その波及効果は？東日本大震災後に自然災害への諦めの態度を示していた児童が、「主体的に行動する態度」へと変容したコミュニケーション手法は何だったのか？小学 5、6 年生約 450 人に実際に防災出前授業をし、その際に得たデータを基に分析した広島県の結果を発表する。

14:40～15:00

演題 12

ゲームシミュレーションによる防災・減災教育  
—みちのく版の開発—

○田中勢子（わしん倶楽部）

防災・減災教育にゲームシミュレーションを活用することにより楽しく学べ身につくことを、被災後作成されたみちのく版ゲームの実践報告等により提案する。

15:00～15:10 休憩

座長：調整中

15:10～15:30

演題 13

## 新型インフルエンザ等感染症発生・流行の被害低減に向けた学校教育の必要性

○坪内暁子（順天堂大学）・内藤俊夫（順天堂大学）・大槻公一（京都産業大学）・重松美加（国立感染症研究所）ほか 7 名

2011 年は、被災地等日本各地で野鳥や家禽から高病原性鳥インフルエンザウイルスが複数検出された。劣悪な医療・衛生環境下でのヒト-ヒト感染の可能性を踏まえた、感染症教育プログラムの試行と問題点について報告する。

15:30～15:50

演題 14

大震災からの復興と学校防災  
—インドネシア・アチェにおけるスマトラ沖地震から 10 年の現状—

○桜井愛子（東北大学）

インドネシア・アチェでは、2004 年のスマトラ沖地震から今年で 10 周年を迎える。本発表では、2014 年 6 月に現地アチェにおいて、教育セクター、コミュニティ関係者を対象に行われた「復興 10 年の検証」ワークショップで得られた情報をもとに、大津波から 10 年のアチェにおける人々の防災意識や学校防災をめぐる成果や課題を明らかにし、今後の国際協力のあり方について論じる。

15:50 閉会挨拶 佐藤 健（東北大学）

16:00 閉会